

1本で世界全体の株式に投資できるファンドがある！

投資家が自分の裁量で商品を選ぶネット証券会社のホームページを見ると、投資信託の売れ筋上位に、近年パフォーマンスが圧倒的に良い米国株式に投資するタイプと並んで、三菱 UFJ 国際投信の「eMAXIS Slim 全世界株式（オールカントリー）」が入っています。これは、文字通り、1本のファンドで全世界の株式に投資できるものです。

株式相場は、経済全体の成長を長期的には反映すると考えられます。このため、今後高い経済成長が期待できる国に投資し、その国が期待通りに成長を続ければ、株式を通して、高いリターンが得られます。

しかし、今後 10 年、20 年という長期投資を考えた場合、どこの国が成長をリードするかを予想することは容易ではありません。

国ごとの経済成長を予想することは難しいでしょう。一方、世界全体の経済規模は長期的に拡大傾向を続けてきているので、今後も成長し続ける可能性が高いと考えることができます。いちばんパフォーマンスが良かった国に投資することはできなかつたとしても、平均的なリターンが得られれば良いと考える投資家にとっては、世界全体の株式に投資することが有効な投資戦略になります。

その際、個別株の組み合わせで世界全体の株式に投資することは、個人にとっては不可能に近いので、投資信託を通しての投資が有効です。

●2つの世界株指数

世界全体の株式を対象とした株価指数は2つあります。

1つは、「MSCI オールカントリー・ワールド・インデックス (ACWI)」です。これは MSCI 社が開発した指数で、先進国と新興国、計 50 カ国の大型株・中型株、計 2975 銘柄を対象として算出されており、世界全体の株式時価総額の約 85% をカバーし

ています（2021 年 10 月末現在、以下同じ）。冒頭で紹介した「eMAXIS Slim 全世界株式」は、この指数との連動を目指す投資信託です。なお、日本の投資家のために、日本株を含まない指数も別途公表されており、この指数との連動を目指す投資信託も発売されています。

もう1つは、「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス」です。こちらは、FTSE 社が開発した指数で、49 カ国の大型株・中型株・小型株、計 9381 銘柄を対象として算出されています。MSCI 社の指数では採用されていない小型株も対象としていることもあり、銘柄数が約 1 万と極めて多く、世界全体の株式時価総額の約 98% をカバーしています。この指数と連動する投資信託としては、「楽天・全世界株式インデックス・ファンド（愛称：楽天・バンガード・ファンド（全世界株式））」、「SBI・全世界株式インデックス・ファンド（愛称：雪だるま（全世界株式））」があります。

MSCI 社と FTSE 社の指数を比べると、FTSE 社のほうが銘柄分散されており、その分、リスク度は低くなると想定されます。また、FTSE 社では小型株も対象となっているので、小型株の成長も取り込めると考えられます。

しかし、両者の過去のパフォーマンスはほぼ同じです。これは両者とも、株式の時価総額でウェイトを加えて算出する「時価総額加重平均方式」の指数となっているためだと考えられます。

国別の組入比率上位 5 カ国は表の通りですが、いずれも米国株式のウェイトが極めて高くなっており、構成国や比率はおおむね同じです。組入上位 10 銘柄を見ても、アップルやマイクロソフトなど、米国株が 10 社中 9 社を占めており（残り 1 社は台湾の TSMC〈台湾セミコンダクタ

一〉）、組入比率に多少の違いはありますが、顔ぶれは同じです。

小型株は文字通り規模の小さい会社で時価総額が小さいため、指数に与える影響が限定的になっていると考えられます。

ここまで具体名を挙げた 3 本の投資信託の過去の運用実績を比べてみると、「eMAXIS Slim 全世界株式」の実績がやや良く、純資産総額も 3224 億円といちばん大きいこと、コストは 3 本とも極めて安く大差がないことから、いま投資するなら「eMAXIS Slim 全世界株式」をお勧めします。

●GDP 加重型という考え方

「eMAXIS Slim 全世界株式」は、時価総額加重型の MSCI ACWI との連動を目指すことから、時価総額が小さい新興国株式のウェイトが 11.6% と低くなっています。

長期的には、先進国より新興国株式のほうに期待が持てる場合、別途、新興国株式ファンドにも投資するか、もともと新興国株式のウェイトが高い投資信託を選ぶ必要があります。

新興国株式の比率が高い全世界株式ファンドとして、ニッセイアセットマネジメントの「ニッセイ世界株式ファンド（GDP バスケット型）」があります。このファンドは、日本、先進国、新興国の名目 GDP（国内総生産）の比率に基づいて投資比率を決めており、新興国株式のウェイトが 40.4% と高くなっています。

なお、今回、具体名を挙げた 4 本の投資信託は、いずれも「つみたて NISA」の対象商品になっています。

（クルー 目黒政明）

【組入比率上位 5 カ国】

MSCI 社		FTSE 社	
米国	60.64%	米国	59.47%
日本	5.71%	日本	6.28%
中国	3.99%	英国	3.93%
英国	3.63%	中国	3.71%
カナダ	2.92%	カナダ	2.90%